

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	12-127	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Psychiatric morbidity is linked to problem drinking in midlife among alcohol-dependent men: a co-twin control study. アルコール依存男性において精神疾患罹患率は中年の問題飲酒と関連している:一卵性双生児比較研究		
<b>執筆者</b>		
Blonigen DM, Burroughs T, Haber JR, Jacob T.		
<b>掲載誌</b>		
J Stud Alcohol Drugs. 2013 Jan;74(1):136-40.		
<b>キーワード</b>		
精神疾患、飲酒障害、問題飲酒、前向き一卵性双生児比較研究		
<b>要旨</b>		
<b>目的:</b> 以前の報告では観測された所見に対して明瞭な環境要因の説明ができないことから、問題飲酒の予測因子に関する先行研究は限られていた。前向き一卵性双生児比較研究を用いて、遺伝的基盤により交絡しない状況下で、精神症状の既往が中年期の問題飲酒における環境要因に及ぼす程度を検討した。		
<b>方法:</b> The Vietnam Era Twin Registry から 367 の男性双子ペア (208 ペアが一卵性、159 ペアが二卵性) を対象とした。彼らは中年期に the Family Twin Study の一部で評価されている (平均年齢 51.4 歳)。1992 年時の飲酒障害の診断生涯期間が一致しているペアを選択し、10 年後の 2001 年に飲酒障害 (問題飲酒など) の症状を測定するために再度面接を行った。		
<b>結果:</b> 1992 年に測定された精神症状 (大うつ、気分変調、全般性不安障害、パニック障害、反社会的人格、躁病、および心的外傷後ストレス障害) の生涯症状数がペア内で異なることが、その後 10 年後のペア内の飲酒障害の症状の差に有意に関連していた。		
<b>結論:</b> 精神疾患の既往、特に内在化症状によるものは、遺伝的交絡の影響を超えて中年期の問題飲酒と関連しているようであり、またこの精神疾患の既往は、生涯のこの期間 (つまり中年期) における個人の問題飲酒を解決するために併存疾患に対する統合的介入の潜在的価値を強調するものである。		